

所属 英米学科 ICC	職名 准教授	氏名 繁沢 敦子	大学院における研究指導担当資格の有無 (有・無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2016年4月～	インターネットのニュース映像・音声を用い、生きた英語をそのまま理解できるように授業を構成している。質疑応答を通して学生が内容について理解を深めるよう努力している。一学期に必ず一回、各学生がプレゼンテーションを行うことで、常日頃からニュースに関心をもつよう動機付けを行っている。		
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年9月	日本平和学会「安保法制 100 の論点」 (http://www.psj.org/ 論説-声明/安保法制-100 の論点/) のうち、「95. メディアと戦争と平和の関係について説明してください」を担当。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項		2016年7月13日 2017年10月27日	模擬授業 兵庫県立伊川谷北高校 模擬授業 兵庫県立星陵高等学校		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・共著の 別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数
著書					
『原爆と検閲—アメリカ人記者たちが見た広島・長崎』	単著	2010年6月	中公新書		
訳書					
『検閲—原爆報道はどう禁じられたのか』 原著: Braw, Monica (1986). <i>The Atomic Bomb Suppressed: American Censorship in</i>	翻訳	2011年11月	時事通信社		

Occupied Japan. Armonk, NY: M. E. Sharpe.					
論文					
「ジョン・ハーシーの『ヒロシマ』再考～66年目の視点で読み解く」		2012年11月	『広島国際研究』、第18巻 (広島市立大学国際学部)		pp.19-37.
「錯綜するアメリカの公式見解～米軍における『もう一つの戦争』とスティムソン論文の誕生～」		2013年3月	『同志社大学アメリカ研究』別冊第20巻(同志社大学アメリカ研究所)		pp. 103-126.
「米戦略爆撃調査団報告書の〈原爆不要論〉：原爆投下論争の研究史から見るその役割と意義」		2013年11月	『広島国際研究』、第19巻 (広島市立大学国際学部)		pp. 1-19.
「ジョン・ハーシーの「ヒロシマ」形成過程の考察～編集者の役割を中心に～」		2013年12月	『原爆文学研究』第12号 (原爆文学研究会)		pp. 101-121.
「革命的な兵器」か、「強力な爆弾の一つ」か？-原爆の威力をめぐる言説と米戦略爆撃調査団報告書		2016年11月	『歴史学研究』第951号(歴史学研究会編)		pp. 52-63
From the STINKO to USSBS Motion Picture Project: Daniel A. McGovern and the Army Air Forces' First Atomic Bomb Films		2017年11月	神戸外大論叢第67巻3号		pp. 107-130
National Model United Nations and the First Student Press Corps: With a Thought on Journalism Education at Japanese Universities		2017年11月	研究年報第57号		pp. 101-115
日本語学会発表					
「ジョン・ハーシーの『ヒロシマ』～放射線の影響に関する記述を検証して～」		2012年9月	日本アメリカ史学会第9回 年次大会自由論題(一橋大学)		
「「幻の」STINKOプロジェクト～終戦直後の原爆記録フィルムの起源と変遷、封印をめぐる～」		2013年6月	日本平和学会2013年度春 季研究大会自由論題部会 (大阪大学)		
「ジョン・ハーシーの『ヒロシマ』: 形		2013年8月	第42回原爆文学研究会		

成過程の考察～編集者の役割を中心に ～」			(神戸市外国語大学)		
「米戦略爆撃調査団<原爆不要論>形成過程の考察」		2013年11月	関西アメリカ史研究会第51回年次大会(キャンパスプラザ京都)		
「第2次世界大戦後の米軍再編・統合の軌跡～文民指導者の役割を中心に～」		2014年6月	アメリカ学会第48回年次大会自由論題部会(沖縄コンベンションセンター)		
「米戦略爆撃調査団報告書における原爆の語り」		2016年12月	神戸外大英米学会		
「爆風兵器か、火災兵器か? 米戦略爆撃調査団と原爆の威力をめぐる言説の形成」		2017年6月3日	アメリカ学会第51回年次大会自由論題部会(早稲田大学)		
英語学会発表					
John Hersey's <i>Hiroshima Revisited</i> —with a Perspective of a Span of 65 Years”		2011年9月	American Studies Conference 2011, America-Japan Society (International House of Japan, Tokyo)		
“Cross-Section of Factual and Counter-Factual: US Strategic Bombing Survey and Its ‘Early Surrender Hypothesis’”		2012年7月	International Graduate Student Seminar (IGSS), Doshisha American Studies Summer Seminar (Doshisha Biwako Retreat Center, Otsu)		
“The Legacy and Implications of the U. S. Strategic Bombing Survey: Was A-Bomb Really Not Necessary to End the War?”		2013年7月	International Graduate Student Seminar (IGSS), Doshisha American Studies Summer Seminar (Doshisha Biwako Retreat Center, Otsu)		
“The Legacy and implications of the U. S. Strategic Bombing Survey: Is Its Conclusion Really Unreliable?”		2013年11月	The 48 th International Conference, The American Studies Association of Korea (Seoul, Republic of Korea)		
"Encountering the Atomic Bomb: the US Strategic Bombing Survey Goes to Hiroshima and Nagasaki		2015年9月	International Conference: 70 Years after Hiroshima: Conceptualizing Nuclear		

			Issues in Global Context (Prince Takamado Japan Center, University of Alberta, Edmonton, Canada)		
Robert P. Patterson and USSBS Atomic Bomb Report: Mystery of “June 26” and His Attempt to Counteract Isolationism		2017年11月9日	Annual Meeting, American Studies Association (Chicago, USA)		
国際会議での討論者		2017年2月	Osaka University International Seminar (Osaka University)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
アメリカ学会 日本アメリカ史学会 日本平和学会 関西アメリカ史研究会 占領戦後史研究会	会員				